

目次

茶の湯における懷石の流れ——四

コラム

第一章 懷石は如何なるものなりや——九

一 天文期の懷石  
武野紹鷗の献立（『松屋会記』より）——二二

第二章 如何にして懷石に至りしや——二七

二 永祿期の懷石  
松永久秀の献立（『松屋会記』より）——四一

第三章 食器を論じる——四五

三 天正期の懷石  
千利休の献立（『神屋宗湛日記』『献立』より）——六一

第四章 飯と汁を論じる——六五

四 文祿慶長期の懷石  
古田織部の献立（『神屋宗湛日記』『献立』より）——七八

第五章 向付と香物を論じる——八一

五 寛永期の懷石  
小堀遠州の献立（『松屋会記』より）——九五

第六章 椀盛と吸物を論じる——九九

六 享保期の懷石  
近衛家熙の献立（『槐記』より）——一二四

第七章 焼物を論じる——二七

七 天明期の懷石  
酒井宗雅の献立（『逾好日記』より）——一三一

第八章 酒と八寸を論じる——三五

八 文化文政期の懷石  
松平不昧の献立（『不昧公囲炉裏の茶事』より）——一四八

第九章 菓子を論じる——五一

九 幕末の懷石  
玄々斎宗室の献立（『鷹司家等茶会記』より）——一六七

第十章 京料理と江戸料理——七一

十 明治期の懷石  
井上世外の献立（『茶会漫録』より）——一八五

第十一章 近代の懷石——八九

十一 昭和戦前期の懷石  
益田鈍翁の献立（『昭和茶道記』より）——二〇三

懷石年表——二〇六

懷石難語辞典——二一〇 参考文献——二一八

あとがき——二二〇